

整備インフォメーション

Vol. 141

大型トラック・バス エアドライヤおよびエア系装置の定期点検整備のお願い 日野自動車株式会社

近年の大型車ブレーキ及びエア系装置は電子制御によりデバイスが高精度化し、エア系に含まれる水分や油分の影響で思わぬ機能不良や大きなトラブルの原因となる場合があります。

このため、従来以上にエアドライヤおよびエア系装置の点検整備が重要となっておりますので、確実な定期点検整備の実施をお願いします。

■対象車種

2010年以降 大型トラック（プロフィア）、大型バス（セレガ）



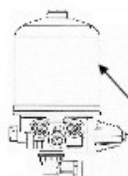
■エアドライヤの乾燥剤・フィルタを交換せずに使い続けると…

エアドライヤは車両エアの水分や油分を除去する重要な働きがあります。エアドライヤの乾燥剤およびフィルタを交換しないまま使用し続けると、エア系統に水分や油分が入り込み、ブレーキ装置等の故障を引き起こすおそれがあります。

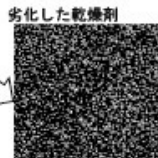
<故障の事例>

- ・エア系 ; バルブ等の機能不良およびエア洩れ
- ・ブレーキ系 ; 引き溜り、急制動（カックンブレーキ）、ロック、パーキングブレーキ解除不良
- ・駆動系 ; トランスミッション変速不良、クラッチ切れ・接続不良

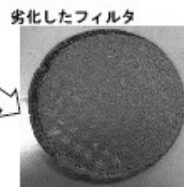
モデルによりカートリッジ
交換方式採用（非分解）



新品の乾燥剤



新品のフィルタ



■定期

点検整備

点検・交換時期	点検交換・整備項目
1年毎 ※1年毎または60千km (モデルにより異なります)	<ul style="list-style-type: none"> ・エアドライヤのカートリッジ又は乾燥剤、ポイント フィルタ、ゴム部品は全て交換してください ・電子制御ブレーキ（EBS）用バルブの排気孔にオイルが付着している場合は、バルブのゴム部品の劣化が考えられます。日野販売会社の整備工場での点検・整備を受けて下さい
5年毎 ※モデルにより6年毎	電子制御ブレーキ用バルブ類を交換してください <ul style="list-style-type: none"> ・ブレーキシグナルトランスミッタ ・プロポーションナルリレーバルブ ・バックアップバルブ ・アクスルモジュレータ ・トレーラコントロールバルブ

- ・詳細はメンテナンスノート、取扱説明書、整備解説書をご参照ください。
- ・メンテナンスノート等の内容でご不明な点がございましたら最寄りの日野販売会社までお問い合わせください。

大型車の車輪脱落事故防止に係る令和4年度緊急対策の実施について

国土交通省より、標記、事故防止対策の積極的な取り組みについてのお願いがありましたので、お知らせします。

ISO方式ホイール取付け時のポイント

1

部品の点検と清掃

部品を点検し、以下のものは交換

- ・ナット：座金が固着、分離、ねじ山の損傷
- ・ボルト：折れ※1、伸び、著しい錆、ねじ山の損傷

※1 折損している場合は、その車輪すべてのボルト、ナットを交換

部品取付け面、ネジ部を清掃する

ディスクホイール、ハブ、ボルト、ナットの

錆やゴミ、塗装などを取り除く。



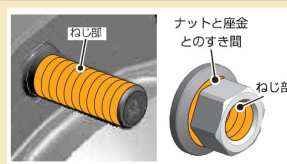
2

ナット、ボルトへのオイル塗布

ナットとボルトにエンジンオイルを塗布

- ・ナット：①ねじ部、②ナットと座金のすき間
- ・ボルト：ねじ部

ナットを数回まわし、ナットと座金のすき間全体にオイルをなじませる。

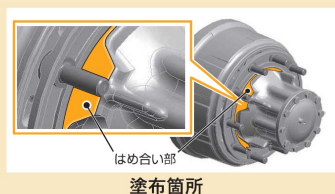


3

ホイールの取付け

- ・ハブのはめ合い部にグリースを薄く塗布してください。

- ・ホイール取付けの際は
ボルトのねじ部を傷つけないよう注意し、
ホイールをハブの奥まで押し込んでください。



4

ナットの締付け

- ・ナットを手で回しホイールに着座する事を確認し、
かじった場合、ボルトとナットを交換してください。

- ・仮締め後トルクレンチを使用して
規定のトルクで締め付けてください。

規定トルク：550～600 N・m

注意

仮締め、本締めともに対角線順に締め付けてください。

8本ボルトの場合



10本ボルトの場合



5

ナットの増し締め

- ・タイヤ取付け後50～100km走行後を目安に、再度規定トルクで増し締めしてください。

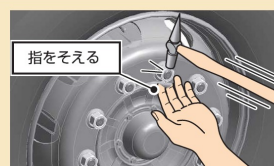
日常点検で確認すること

①目で見て確認

- ・ナットが浮いていないか？
- ・ナット、ボルトは付いているか？
- ・ホイールに亀裂がないか？

②点検ハンマーで確認

- ・ナットに指をそえて叩く
⇒振動・音が他と違うと
緩みの恐れ



一般社団法人 日本自動車工業会

いすゞ自動車（株）／日野自動車（株）／三菱ふそうトラック・バス（株）／UDトラック（株）

【内容】ディーラーの診断間違いでミッションを2回交換した

・車名：軽自動車 ・登録年：平成25年 ・走行距離：1.4万km

新車で購入した軽ワゴン、メンテナンスはずっとディーラーにお願いしており、アクセルを踏んでも走らなくなったので入庫したところ、「ミッションに異常があると診断機に出ている。コンピューターも怪しいが、確実に悪いミッションから交換してもらう必要がある。ミッション50万円、コンピューター20万円、両方悪ければ70万円かかる」と説明があった。しかし、安く済ませたかったので、インターネットで調べて程度の良い中古のミッションを手に入れ、近くの整備工場で作業してもらったが、症状は変わらなかった。ディーラーに相談したところ、「中古の部品なので、同じ個所が故障していたのではないか」と言われたので、今度はリビルト品を購入して再び載せ替えしてもらったが、症状は変わらなかった。ディーラーからは、「2回とも同じ不具合のあるミッションを手に入れてしまったのではないか」と言われたが、リビルト品はオーバーホール済みのなので、不具合があるはずがない。外したミッションを点検するように頼んだが、「単体では点検できない。車上の組まれた状態で診断機により異常を見つけたのだから、間違いない」と取り合ってくれない。

【対応】

振興会の立ち位置、電話でディーラーに事実確認程度はできるが、指示命令はできないことを説明し、「ディーラーの客相窓口で相談し、それでもだめなら、メーカーの客相に電話してはどうか」と助言し、相談を終えた。

= 統 計 =

検査予約無断キャンセル状況(12月分)

12月分のキャンセル多発事業場はありませんでした。ご協力ありがとうございます。
引き続き、予約の申し込みとキャンセルには、十分にご配慮をお願い致します。

なお、12月分の検査前日の18時以前に予約を取り消した件数は次のとおりです。
安定した予約制度とするため、確実な予約を行うようご協力ください。

12月分のキャンセル件数は次のとおりです。

普通車	277
軽自動車	1,684
合 計	1,961